

関西電力株式会社社長 藤 洋作 様

関西電力の関西国際空港エネルギーセンターでの データねつ造事件に関する抗議文

若狭連帯行動ネットワーク

貴社の運営する関西国際空港エネルギーセンターのコジェネレーションシステムで、品質記録および定期事業者検査項目に176件の不正処理があることが、5月31日発覚しました。東京電力、三菱自動車の不祥事に続く貴社の不正事件は、国民の信頼を根底から損なうものです。極めて憂慮すべき事態です。

定期事業者検査結果の日付を書き替え、検査記録の計測値を書き替え、検査記録の管理基準値を書き替え、検査をしていなかったのに検査記録を作成するなど、少なくとも3年間にわたり、貴社は意図的に隠蔽や不正行為を行っていました。

これらは貴社の品質マネジメントシステムが未確立であるだけにとどまらず、決められた手順そのものを守らないという、企業の「力量」以前の問題です。

貴社は、昨年10月23日に「海外MOX燃料調達に関する品質保証活動の改善状況について」を発表し、1999年9月に発覚したMOX燃料ペレット外径データ改ざん事件への対処策を打ち出しました。貴社はその中で「品質マネジメントシステムの充実を図っています」と強調しました。

しかしこれに対して、本年2月5日原子力安全保安院から「品質保証活動を実施するには不十分である」と指摘を受けました。

私たちも、貴社との交渉で貴社の社員の能力が、品質の欠陥を見つけられるほどに教育されている保証はあるのか、問い詰めました。しかし、貴社側からは、何ら説明はなく、それどころか「言われているとおり、品質マネジメントシステムを効果的に運用していくためにはそれを支える要員の力量がとくに重要であるため、J E A C 4 1 1のベースであるISO9001にかかる研修などの品質保証教育をより一層充実し、J E A C 4 1 1に対する理解を深め、品質保証活動の充実強化をしてMOX燃料の調達を確実に進めていきたい」と、貴社の社員への教育がまだこれからであることを認めたのです。

1999年のMOX燃料データ改ざん事件の発覚以降、貴社自身が4年間をかけて品質マネジメントシステムを「構築」していた、まさにそのときに、不正行為を重ねていたのです。

貴社として、その責任をだれが、どのように取るのですか。貴社が経営の基本方針の一つに掲げるCSR行動憲章における「コンプライアンスの徹底」が、最初から崩壊していたことの責任を明確にして下さい。

私たちは、ここに関西国際空港エネルギーセンターのコジェネレーションシステムでのデータ改ざんに強く抗議します。品質マネジメントシステム確立を条件にMOX燃料契約を政府から容認された貴社は、その条件が満たされていなかったことを深く反省すべきです。

私たちは、貴社にMOX燃料加工の基本契約を即刻撤回し、プルサーマル計画を中止するよう求めます。